





国語問題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は二十二ページまである。
2. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
3. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験票と照合して受験番号が正しいかどうか確認すること。
4. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
6. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
8. 文字は一点一画まで正確に書くこと。
9. 解答用紙は持ちかえらないこと。
10. この問題用紙は必ず持ちかえること。
11. 試験時間は六〇分である。

(マークの記入例)

良い例	悪い例
	  

(一) 次の文章を読み、後の問に答えよ。

私は一時期、アメリカで子育てをしていたことがあった。公共の場で子どもが走り回ったり、泣き声を出したりしないように非常に気を遣わなければならなかった。家で子どもが泣いても、近所の住人から管理人にクレームがつくことがあり、注意されたりもしたので、とにかく子どもを静かにさせるのが大変だった。そうした経験を通して、子どもに対してとても厳しい社会であることを実感した。

日本はもともと子どもに甘いのに、「ほめて育てる」「叱らない子育て」などというものがもてはやされることで、子どもがルール違反をしても公共の場で人に迷惑をかけても、毅然と叱ることができない親が増えてしまったのではないか。

イギリスと日本の子育てを比較検討している教育学者佐藤淑子は、日本人の母親に対する面接調査によって、日本の母親が人目を気にしながら子どもに対応していることと、子どもを叱ることに心理的抵抗をもっていることを見出している。

たとえば、ブランコの順番に割り込んできた子にわが子がちゃんと抗議したときなど、それは望ましい自己主張であるわけだが、割り込みをした子やその母親への配慮から、わが子をほめることはしないという母親が何人もいたという。

具体的には、「後でさっきはえらかったねとほめることがあるけど、その子の手前黙っている」「人に対してやめてと主張することはたしかにいいことですけれども、相手のこと考えたらその子はいやな思いするわけですよね」「この割り込んだ子にしてみれば、そのときブランコにのりたいたいという気持ちが強かったかもしれない……」「そのとき子どもを遊ばせているメンバーの母親によっても私の対応は違ってくる」などというのである。

また佐藤は、日本の母親には、自分の子どもを叱るといふ行動そのものについて、非常に心理的抵抗がある人が多いことを見出している。「叱る」といふ言葉より、「話してみる」「言い聞かせる」「教える」「促す」「ことばがけをする」「説明する」「提案する」「の方向にもっていく」「話して納得させる」などといった言葉の方が母親の気持ちにぴったりするといふのであった。そして、約半数の母親が、子どもを叱ることは公共の場面であればみつともないし、公園やスーパーマーケットなどで自分の子どもを頭

ごなしに叱っている母親を見ると自分はそんな風にしたくないと感じるというのである。

さらに、面接調査を通して、日本の母親には叱るという言葉に対してアレルギーともいえる抵抗感があることがわかったという。叱りたくない母親のなかには、子どもを叱らずに見守りましょうという主旨の育児書のマニユアル依存の傾向のある母親もいた。そこには「いいお母さん」「叱らないお母さん」という図式がみられる。

このような佐藤による面接調査の結果から窺えるのは、社会規範を子どもに叩き込むことに対する欧米と日本の意識の違いである。

欧米では、公共のマナーに反する子を見かけたら他人でも大人が注意するというのが常識となっている。社会的規範に反することは許さないという明確な基準に基づいて子どもはしつけられる。

それに対して日本では、マナーに反することをした子に注意をしたわが子を支持することさえしにくい雰囲気があることが、こうした結果にあらわれている。マナー違反をしたという事実は棚上げして、注意された子はいやな思いをするだろうとか、その子も悪気はなかったのだろうしなどと、マナー違反をした子の気持ちまで思いやったり、マナー違反をした子の母親の気持ちまで配慮している。そこにはやさしさがあるとみることもできるかもしれないが、気まづくなりたくないという保身的な意向が強いように思われる。^aこれでは社会規範をしっかりと子どもに身につけさせるのは難しいだろう。

この調査が行われたのは、1995年から96年にかけてであり、その頃すでに「ほめて育てる」という考えが浸透していたことがわかる。2000年にはアメリカの教育家、ドロシー・ロー・ノルトとレイチャル・ハリスの共著『子どもが育つ魔法の言葉』が評判となり、単行本の年間ランキングで8位を記録した。これも「ほめて育てる」が当時、日本で受け入れられる素地が充分あった証左だろう。

「ほめて育てる」が浸透してからほぼ20年が経過し、そうした空気のもとで育てられ、厳しきというものにまったく触れずに育った者が、今度は親となって子育てをする側に回り始めている。「ほめて育てる」とか「叱らない子育て」といったキャッチフレーズ

の弊害が本格化するのは、まさにこれからということになる。

日本的な思いやりの心の交流は、けっして否定すべきものではない。問題は、どのように思いやるかだ。叱ることで子どもが傷つき落ち込むのはかわいそうだという形で思いやるのか、もっと長い目で見てここで厳しく叱って社会規範を叩き込んでおかないと後々社会適応に苦労することになりかわいそうだという形で思いやるのか。

本来しつけというのは後者の視点でなされるべきなのだが、叱ることを忌避する空気によって、前者の短絡的な思いやりの視点ばかりがとられがちといった問題があるように思われる。

^b問題は、そのような母性的なものの甘さを補うものが失われつつあることだ。ここでは通知表における変化について触れておきたい。

通知表には、かつては生徒の長所ばかりでなく短所の指摘欄があり、「こんなところに気をつけましょう」といったコメントがあつたものだ。ところが、最近ではほめ言葉のみを書くように言われ、短所や改善が必要な点を指摘するのが難しくなってきたと嘆く教員もいる。 I

たとえば、「協調性のない子」には A 「と書くように」という要請があつたりするのだ。これでは生徒も親も気づきが得られないと危惧するのだが、学校の方針なのでどうにもならないという。

育児書や教育書でも、「子どもをほめるように」として、短所を長所に読み替える方法を提示したりしている。じつは、このような読み替えのノウハウを提示してほしいといった依頼を受け、私も育児・教育雑誌に読み替えのコツについて書くこともあるのだが、それは親自身の心の中の自己コントロールを意図している。つまりイライラしてばかりの心情から脱するための自己コントロールのテクニクなのだ。決して読み替えて子どもをほめるということではない。

教員が通知表の記入に当たってそのような読み替えを求められるのも、保護者からクレームが来ることを学校側が怖れているからである。

ある教員は、「 B 」と学校から言われているという。つまり、子どもが教師の言葉尻をとらえて親に言いつけ、親

がクレームをつけてくることがあるので、子どもが反発しそうな言い方は決してしないように注意しようという意味なのだ。だ。

学校のルールに従うというしつけが家庭でなされていないため、こちらの言い分がまったく通じないと嘆く教員も珍しくない。たとえば、掃除をさぼる子に注意すると「手が荒れやすいから」と自分勝手な言い訳をしたり、「家では掃除なんかしないでいいのに、どうして学校でしなきゃいけないのか」「掃除をするために学校に来てるんじゃない」などと言いつけ出す生徒までいるというのだ。わからせないといけないと思ひ、強く注意して不快を感じさせると、親に言いつけ、親からクレームが来たりする。親自身が、すでに厳しくしつけられていない世代だから、こちらの言い分が親にも通じないこともあるという。

II

叱られる経験の乏しい学生たちと、叱られること、あるいは注意されることについて改めて話してみた。すると、正当な注意であっても感情的に反発する傾向があることがわかる。

授業中、やる気のない態度を取っていたら、先生から注意されてムカついた。そんな発言をある学生がすると、自分もそういうことがあるという者が続く。

——だけど、授業中にやる気のない態度を取っていたら注意されて当然なんじゃないの？

「そうかもしれないけど、やっぱりムカつくよなあ」(周囲も次々と同意を示す)

——でも、自分の態度が悪いわけだよな？

「そう言われればそうですねけど、注意されたときは感情的になっちゃいますよ」

「先生だって授業で言ってるじゃないですか。人間は理屈で動くんじゃないって。感情で動く面が強いって。注意されればだれだってムカつきますよ」

注意された自分が悪かったという実感はほとんどないようなのだ。そのあたりを再度強調して問いかけてみると、わりと冷静にものを言うタイプの学生が、こう答えた。

「先生たちの時代と違って、これまでに怒られたことがあまりないからじゃないですか。明らかに悪いことをしても学校の先生に怒られるってことはほとんどなかったから、怒られるってことにすごく抵抗があるんですよ」

自分たちの事情をこちらにわかるような言葉で説明してくれた。それに別の学生も呼応する。

「そうなんですよ。僕たちは怒られたことがないから。バイトでも、ミスをして怒られるたびに我慢できなくて辞めてる友だちがいるし」

確かに自分の周囲にもそういう友だちがいるという者が多く、やはり叱られ慣れていないと、たとえ自分が悪くて注意されたのであっても、感情的に反発してしまうのだろうということになった。

また、態度の悪さを学校で叱られてきていないから、叱られたときに何が悪いのかわからないということもあるんじゃないかという意見も出た。

「私も、友だちを見ててそう思います。バイトで遅刻して、先輩からめっちゃ怒られてキレたっていう友だちがいるんですけど、これまで遅刻したってたいして怒られなかったから、遅刻するのがそんなに悪いことだと思ってないんだと思う」

「さっきから話を聴いてて思ったんだけど、自分はこれまでバイト先で叱られるたびに逆ギレしてたけど、親にも先生にも叱られたことがなかったから、叱られることの意味がわからなかったんだと思う」

Ⅲ

叱られ慣れていないため、「叱る—叱られる」という建設的な関わりを理解していない。そのため、「叱られる」C「行動修正のきっかけになる」といった発想がなく、「叱られる」Ⅱ「怒ってて感じ悪い」「ムカつく」ということで反発することになる。

親も先生も怒ってくれないけど、バイト先で怒ってくれる大人の人がいて良かったと思うという学生もいたが、そこで学ぶことのできる学生はごく少数なのではないだろうか。注意してもらうことによって自分の態度や行動を修正するということができないという点に、叱られ慣れていないことのデメリットがあるといえるだろう。「叱らない子育て」のお陰で、厳しいストレスにさらされずに育つ者が増えてきた。そのため、ストレス耐性が非常に低い。これが第一の弊害と言える。

「ほめて育てる」の第二の弊害として、自分を振り返る習慣が身につかないということがある。叱ると自信をなくしネガティブになるが、ほめると自信がつきポジティブになると言われる。だから、自己肯定感を高めるためにほめることが大切だとされる。それはほんとうだろうか。ほめることで自己肯定感が高まるかどうかは後でじっくり考えるところとして、ここではほめられて人為的にポジティブになることのもつ危険性について考えてみたい。

最近の若手にやたらポジティブすぎる者がいて困るという声を聞くことがある。ミスをするたびにひどく落ち込むタイプも困るが、ミスしてもまったく気にせず、同じようなミスを繰り返すタイプにも悩まされているという。この手のタイプは、いくら注意しても染み込まず、「わかりました」と口では言うものの、深く受け止めないため、同じようなミスを繰り返す。ある意味でポジティブすぎて、慎重さが足りないのだ。

かつてはネガティブすぎて、「そんなに気にしすぎなくていいよ。もっと気楽にいこう」と励ましたくなるタイプが目立つたものだが、最近では「なんで気にならないんだ。少しは気にしろよ」と言いたくなるタイプも目立つ。今の時勢を考えると、うっかりそんなことを言おうものなら大変なことになりそうだが。至らない点があっても、修正すべき点があっても、そこをはっきりと指摘されずに、ほめられてばかりいたら、いつまでもそれらは修正されない。だから本人は自分の弱点や能力の現状を把握できず、勘違いだらけの人間になっていく。

好きなこと、楽しいことなどだれでもできる。好きなこと、楽しいことをするのに何の努力もいらない。そうしているうちに、努力するという姿勢がなくなる。好きなこと、楽しいことだけしかやれない心の持ち主になってしまったら、人生を前向きに生きていくことができなくなる。

人生は楽しいことだけではない。苦しいこともある。思い通りにならず、つらい思いをすることもある。そんなときも自ら状況を打開していかなければならない。好きなことしかしたくない、楽しいことしかできないという心になってしまったら、愚痴だらけの苦しい人生になってしまうだろう。

V

それに加えて、できることが増えればやりたいことも変わってくるということがある。まだ不勉強で未熟なうちは面白くないばかりか苦痛であった作業も、習熟してくると楽しくなり、もつと技術を磨きたくなるというようなことは、よくあるはずだ。今すぐに好きなこと、楽しいことしかやらないということだと、さまざまな可能性を閉ざして自分の世界を狭めてしまうことになる。

親も学校も、力強く自分の人生を切り開いていく力をつけさせることをせずに、ほめるばかりで現状肯定を促す働きかけをしてきたため、学校でも職場でも鍛えるということができず、傷つけないように腫れ物に触るようになってきている。これでは本人は力をつけて成長していくことができないし、納得のいく人生にすることができない。頑張った後の爽快感を味わう喜びを奪ってしまった大人の責任は大きい。これが第三の、そして最も大きな弊害だ。

(榎本博明『ほめると子どもはダメになる』による)

問一 傍線 a「これでは社会規範をしっかりと子どもに身につけさせるのは難しい」とあるが、その難しさの背景にある現状とはど

のようなものだと筆者は考えているか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1 マナー違反をした子を見つけたとき、注意した方が良いと思っていながら、叱るという行為に対する抵抗感が強くて、叱る代わりに、その子の長所を探してほめてしまうという現状。

2 マナー違反をした子に厳しく注意を与えることよりも、その子の気持ちを慮ったり、その子の親との軋轢は避けたいという意向の方が優先され、きちんと子どもを叱らないという現状。

3 公共の場で自分の子どもがマナー違反をしても、子どもを叱ると、虐待していると勘違いされるのではないかと、保身的なことばかり考えて、マナー違反を棚上げしてしまうという現状。

4 子ども同士で遊んでいるときに自分の子どもを叱ると、それを見た他の子どもがいやな思いをするかもしれないので、他の子どもの気持ちに配慮して、自分の子どもを他の子どもの前では叱らないという現状。

5 社会規範に反することをしたら、他の子どもでも注意するのが欧米流だが、日本では相手の親と気まづくなりたくないという保身意識が強く、自分の子どものマナー違反に対してしか注意を与えないという現状。

問一 傍線b「問題は、そのような母性的なものの甘さを補うものが失われつつあることだ」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 昔の家庭は、子どもの欲求を受け止める母親と社会規範を厳しく叩き込む父親の役割のバランスが取れていたが、20年ほど前からこのバランスが崩れ始め、父性が弱まってきたということ。
- 2 子育てには子どもを丸ごと包み込む母性的なやさしさこそが必要だ、とする社会的規範が定着し、「叱らないお母さん」ばかりがもてはやされ、「叱るお母さん」の肩身が狭くなってきたということ。
- 3 叱ることで子どもが傷つくのは気の毒だという短絡的な思いやりが優先されてしまい、社会規範を身につけ、将来的に自立した強い人間になるように鍛え上げるといふ厳しさが欠如してきたということ。
- 4 学校のルールや方針に従うというしつけが、家庭で徹底されていないばかりか、学校も親の意向に迎合し、通知表に短所を書かなくなったため、学校のルールや方針にクレームをつける親が減ってきたということ。
- 5 「ほめて育てる」の理念の下で教育を受けてきた若者が、今度は自分が子育てをする立場になったが、その子育ては「叱らない子育て」一辺倒で、それ以外の教育理念に理解を示そうとしなくなってきたということ。

問三 空欄 A に入る言葉として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 忍耐力がある
- 2 規範意識が強い
- 3 実行力がある
- 4 信念が強い
- 5 度胸がある

問四 傍線c「親自身の心の中の自己コントロールを意図している」とあるが、ここから親に対する筆者のどのような思いが読み取れるか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 子どもの短所にもどかしさを覚えたときは、その短所を肯定的にとらえなおすという発想の転換をしてほしい。
- 2 誰かに自分の子どもの短所を指摘されたときは、その指摘にいちいち動じないで、受け流すようにしてほしい。
- 3 子どもの短所が目についたときは、短所は長所と表裏一体だと考え、いずれ長所が変わるだろうと温かく見守ってほしい。
- 4 他の子どもと比べて自分の子どもの短所ばかりが気になったときは、自分の子どもにしかない長所に目を向けてみてほしい。
- 5 子どもの短所をどう直したらいいか困ったときは、短所には目をつぶり、長所を探すことで、子育てをもっと楽しんでほしい。

問五 空欄 B に入る文として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 子どもは親の鏡なのだから、注意するなら親を注意するように
- 2 子どもの後ろには親が立っていると思って、子どもと接するように
- 3 子どもは親の背中を見て育つものだから、親のしつげに口を挟まないように
- 4 子どもの声は親の声だと思って、子どもの言い分はすべて受け入れるように
- 5 子どもは親の所有物ではないと聞き直して、親のクレームには屈しないように

問六 空欄

C に入る文として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 自己肯定感を高めてくれる
- 2 自分に気づきを与えてくれる
- 3 自分のストレス耐性を高めてくれる
- 4 自分の反骨心を目覚めさせてくれる
- 5 自分の長所に目を向けさせてくれる

問七 傍線d「ほめられて人為的にポジティブになることのもつ危険性」の例として当てはまるものはどれか。最も適切なものを

次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 態度が偉そうな人に対して、「君は器が大きいなあ」と言っていたら、嫌味を言われたと勘違いして、委縮するようになる。
- 2 仕事に時間がかかりすぎる人に対して、「君は慎重だなあ」と言っていたら、急いで仕上げようとして、仕事の仕方が雑になる。
- 3 自分のミスに無頓着な人に対して、「君は大らかだなあ」と言っていたら、皮肉を言われたと思つて逆恨みし、攻撃的な言動をするようになる。
- 4 規則通りでないと気が済まない人に対して、「君はまじめだなあ」と言っていたら、もっと柔軟になるべきだと考えて、規則を軽視するようになる。
- 5 深く考えずに物事を決める人に対して、「君は決断力があるなあ」と言っていたら、なんでも即断するようになり、慎重な検討を忌避するようになる。

問八 本文中からは次の一文が脱落している。入るべき箇所は、本文中の **I** **く** **V** のどこか。次の中から最も適切なものを一つ選び、その番号をマークせよ。

注意されるということに慣れていないと、叱られる**||**攻撃されている、といった印象になるのかもしれない。

1 **I**

2 **II**

3 **III**

4 **IV**

5 **V**

問九 傍線 e「力をつけて成長していくことができないし、納得のいく人生にすることができない」とはどういうことか。本文に即して五十字以内(句読点を含む)で説明せよ。

(二) 次の文章を読み、後の問に答えよ。

なぜ現代人は死を悲しむのか。理由は生と死をまつこうから対立するものだと考えるところにある。「死んだらおしまいだ」「命あつての物種」などといい、生に絶対の価値をおく。生きているか死んでいるか、人間にはこの二つしかないと考えている。しかしほんとうにそうだろうか。「生ける屍」というではないか。形は生きているが、中身は死んでいる人間もいる。「人は死して名を残す」という。そのばあい、その人は死後にもなお生きているではないか。生と死がまつぶたつに生命を切断しているのではない。「生ける屍」は生きながら死んでいるのであり、「名を残す」は死にながら生きているのである。だから生と死の正しい関係は A でおたがいに領域を侵しあっている。

そもそも生まれてきたから死ぬのである。つまり生まれた瞬間に死をすでに抱きかかえていて、生涯のいついかなるときも、生は死を内部に秘めている。頑強な若者は秘めた死のパーセンテージが低く、老人は高いだけにすぎない。そのように死を秘めたものとして生を考える方が、より完全だろう。おどろくべきことに十四世紀日本が生んだ天才的な思索者、吉田兼好は『徒然草』というエッセーのなかで、満開の花や満月だけが美しいのではないといっている。欠損のあるもの——いくらかの死をかかえた姿こそほんとうの美しさをもつというのである。あのにぎやかなお祭りも、すべてが終わって散らかっている祭りの後をみてこそ、ほんとうに祭りをみたといえる、という。ドキッとさせるではないか。

一般的にいつでも反対のものがあるからそのものがよく理解できる。アジアをみてヨーロッパをみると、それぞれがよくわかる。アジアだけみると、世の中すべてそうかと思ってしまう。男女をみくらべて、はじめて男も女も十分理解できる。景気が冷えこんではじめてバブル経済の実体がわかる。失敗があつて成功する。病気をしてみても健康のありがたさがわかる。みんな同じだ。死を知って生のほんとうの意味がわかる。ヨーロッパにも「死を思え」(メモメント・モリ)ということがあるが、思うだけではなく、むしろ積極的に死を受け入れた生というものを考えるべきだろう。人生はつねに何パーセントかの死をかかえて生きている、と。

死者とは、この死を100パーセントもって、生きている者のことになる。死のない生はない。こうなると死は突然やっつけて生と戦い、生を倒す敵などではない。生ときわめてほしい身内であり、このやんちゃな借家人は、大あばれしてついに家中をセンキョ^ハしてしまうことがある。それでも母家^アは倒れはしない。そのまま連続して生きているのだから、別に大した出来事ではない。そのまま生きて、むしろ汚れやけがなくなつて神さまになるのだから、これほどありがたいことはないのである。

ただ、死ぬと肉体がなくなることは、だれの目にも明らかである。いかに100パーセントの死をかかえて生きるといつても、何かそらぞらしい。死ねばおしまい、という方がよほどわかりやすい。やはり現代人の考え方が正しいのだろうか。

「NO」である。つまり本来の日本人が考えた生命と現代人が考える生命とが、根本的にちがう。現代人は「生きる」といえば肉体をもち、呼吸していること(息をすることが生きることなのだから)と考える。しかしだれがそう決めたのか。何もきまっていはいない。心拍をきき、医者が脈をたしかめ、瞳孔の開き具合などを見て「臨終です」というのは、現代医学で肉体のおわりをそうとりきめただけであつて、生命のおわりは神さましかわからない。

それでは、日本人本来の生命観^bはどのようなものか。古代人の生命観^cは、生物全体に共通するから、つぎのように説明するとわかつてもらえるのではないか。

動物が 死ぬ。 やがて (魂が) 離れる。

植物が 萎える。 やがて 枯れる。

つまり「死ぬ」とは生命を養うみずみずしさがなくなることであり、植物でいえば「萎える」ことである。死にはなほに近いが、しかしまだ肉体は減んでいのではない。そしてついに枯れるときに植物が実体を失うときであろう。その状態を人間でいえば「離れる」といった。「離れる」とは、魂が肉体から離れることである。魂の離別、それが肉体のおわりだった。逆にいえば、どんなに干からびても魂さえ残っていれば肉体は減んでいない。

その関係が少しずれて、干からびることが肉体のおわりになった(死ぬこと)のが現代である。なぜか。いうまでもなく、存在にとって肉体がすべてになったからである。目に見えない魂なんて、信じるのははや迷信にすぎなくなった結果だった。目下の自然科学で靈魂を確実に証明することは、まだできていないといってよいだろう。しかし現代人といえども、靈魂として生きつづける人間存在を、一度も実感しない人も少ない。「Bに立つ」とか「虫の知らせ」とかと、その経験をよぶこともある。

靈魂ということばがピンとこない人には、^二ベンギ的に心の働きといってもいい。肉体をもたない死者は心の働きとして生きている、と。それもあいまいだという人には、死者といえども、残された人の記憶に生きていいかえてもいい。この靈魂こそが、じつは古代人の「いのち」だった。だから肉体は滅んでも靈魂は神となって生きつづける。靈魂が消えれば、その人はもうこの世に存在しない。

考えてみれば人間の力には体力と心力との二つしかない。そのうちのどちらかひとつを選べと神さまからいわれると、みなさんはどちらを選ぶか。十七世紀フランスの哲学者パスカルは「人間は考える葦である」といった。人間は大宇宙にくらべると葦のように弱い存在だが、大宇宙を知っているからである。つまりパスカルは神さまに「心力を選びます」と答えるはずである。そして、みな彼に同意するのではないか。それなのになぜ現代人は肉体にこだわって肉体の消滅ばかり気にするのか。肉体の若さを賛美し若さを価値とする社会——現代日本社会はもつともその傾向が強いのだが、そんな社会は未熟な社会であり、中国のように老人を尊重する社会は成熟した文化をもつ。肉体は「いのち」ではない。魂がこもる心こそ「いのち」だという、日本人本来の考えをもう一度とり戻して生きたいものである。

(中西進『日本人の忘れもの』による)

問一 傍線イ、ロの読み方をひらがなで記せ。

問二 傍線ハ、ニのカタカナを漢字で記せ。

問三 空欄 A に入る言葉として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 逆説的
- 2 補完的
- 3 排他的
- 4 遡及的
- 5 相似的

問四 傍線 a「母家」はここでは何を指すか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 魂
- 2 敵
- 3 死
- 4 神
- 5 肉体

問五 傍線 b「日本人本来の生命観」とあるが、その生命観に合致しないものはどれか。次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 魂が残っていれば肉体は滅びない。
- 2 肉体が減んでも靈魂は生きつづける。
- 3 肉体が減ぶことが「いのち」のわりである。
- 4 魂が肉体から離れたときに肉体のわりである。
- 5 人々の心の働きとしての靈魂こそが「いのち」である。

問六 傍線c「古代人の生命観は、生物全体に共通するから、つぎのように説明するとわかってもらえるのではないか」とあるが、その古代人の生命観を筆者はどのようにして説明しているか。当てはまらないものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 動植物の死における肉体と魂の関係から説明している。
- 2 動物の死を植物の死と平行的にとらえて説明している。
- 3 古代日本語の単語の意味を対比することで説明している。
- 4 生物全体に共通する、死に至る過程を段階的に説明している。
- 5 迷信にすぎないとされる現象を自然科学の知見から説明している。

問七 空欄 B に入る漢字二字の言葉を書け。

問八 本文の内容と合致するものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 日本人は、古くから今に至るまで、死を生に対立するものだと考えてきた。
- 2 日本人は、古くから今に至るまで、死は生の中に秘められていると考えてきた。
- 3 現代の日本人は、パスカルの「人間は考える葦である」を成熟した文化のあり方だと考えている。
- 4 現代の日本人は、「いのち」に対する日本人本来の考え方を忘れ、肉体を「いのち」だと考えている。
- 5 日本人は、かつて、「生きる」ということは肉体をもつことであり、死ねばおしまいだと考えていた。

(三)

次の文章は、説経節『山椒大夫』の一節である。山椒大夫に奴婢(奴隸的身分の召使)として買われた安寿とつし王の姉弟は、山椒大夫に酷使される。姉と弟が互いに脱走を勧めているところを山椒大夫の邪悪な息子三郎に聞かれてしまう。姉弟は大夫の怒りにふれて、正月三日に、三郎に顔に焼金を当てられ、「浜路」の「松の木湯船」の下に捨て置かれたうえに、餓死させられることになる。しかし、やはり山椒大夫の息子ながら慈悲深い二郎が食べ物を密かに分け与えたお陰で生き延びる。次の文章はそれに続く部分である。この文章を読み、後の問いに答えよ。

大夫は、昨日や今日とは存ずれども、はや正月十六日にまかりなり、三郎を近づけて、「やあいかに三郎、それ人の命といふものは、脆^{もろ}いやうで、またつれないものでありけるぞ。浜路の姉弟^{きょうだい}が命があるか、見て参れ」との御誼^{ごぎ}なり。「承^うつて御座ある」と、浜路へ下がり、松の木湯船を仰のけて見てあれば、あらいたはしやな、姉弟の人々は、土色になつておはします。大夫殿へ連れてお参りあるが、大夫この由御覽^{ごらん}じて、「Aめでたいものよな。最早山へも行け、浜へも行け」との御誼なり。姉御この由きこしめし、「さん候。山へならば山へ、浜へならば浜へ、一つに遣^はつて給はれ」とお申しある。大夫きこしめし、「あふ、それ人の内には笑草とて、一人なふて叶はぬものよ。姉だに山へ行かうと言はば、大童^{おほわらわ}にないて山へ遣れ。三郎いかに」との御誼なり。「承^うつて御座ある」と、あらいたはしや、姉御様の丈と等せの黒髪を手にくるくるとひん巻いて、元結際よりふつと切りて、大童にないて山へ遣る。姉弟の口説きごとこそ哀れなれ。

あらいたはしやな、つし王殿は、姉御様を先に立て、つくづく後から御覽じて、「それ人の姿と申すは、三十二相と申すが、姉御様の御姿は、一際増いて、四十二相の形なり。四十二相のその中に、一、髪形^{かみかたち}と申するが、姉御様の髪が御座なければ、それがし、後から見てだにも、頼り力の御座らぬに、さぞや姉御様の力の程の思ひやられてBやな」と、お嘆きある。姉御この由きこしめし、「世が世の折の髪形。かくなりゆけば、髪も形もいらぬもの。姉弟連れ立ちて、山へ行くこそCけれ」と、ある獸道^{ししみち}をお上がりあるが、雪の斑消^{ひらき}えたる岩の洞^{ほら}に立ち寄りて、膚^{はだ}の守^{まも}りの地藏菩薩を取り出だし、岩鼻に掛け申し、「母上様の御誼には、自然^{じぜん}姉弟が身の上に、もしや大事のある時は、身代りにもお立ちある地藏菩薩とお

申しあるが、かくなりゆけば、神や仏の勇力も尽き果てて、お守りなきかよ、悲しやな」。つし王殿はきこしめし、姉御の顔を御覽じて、「なうなういかに姉御様、さても御身の顔には、焼金の跡も御座ない」と、お申しある。姉御この由きこしめし、「げにまことに、御身が顔にも焼金は御座ないよ」。

D

の白毫びやくかうとう所を見奉れば、姉弟の焼金を受け取り給ひ、身代りにお立ちある。

〈注〉

大童にないて…童のような乱髪にして。

元結…髪もとむすの髻もとむすを束ねる紐や糸。

三十二相…仏がそなえる三十二種のすぐれた相。転じて、女性の容貌の美相をもう。美相の一番に髪形を挙げることに多い。

神や仏の勇力…神仏の加護の力。

問一 傍線 a「つれない」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 つまらない
- 2 さりげない
- 3 変哲もない
- 4 変化のない
- 5 思うにまかせない

問二 傍線イ、ホの中から敬語の種類が他と異なるものを一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 イ 「御座ある」
- 2 ロ 「おはします」
- 3 ハ 「御覧じ」
- 4 ニ 「きこしめし」
- 5 ホ 「給はれ」

問三 空欄 A に入る漢字一字の言葉を本文中から抜き出せ。

問四 傍線b「一人なふて叶はぬものよ」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 一人だけでは困るものだよ。
- 2 一人はいないと困るものだよ。
- 3 一人もいないので困るものだよ。
- 4 一人だけでは勝てないものだよ。
- 5 一人はいないと勝てないものだよ。

問五 傍線c「口説きごと」とは具体的にはどのような言葉か。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 命だけは助けてくれるよう嘆願する言葉。
- 2 姉と弟が離れ離れになるのを悲嘆する言葉。
- 3 山へ遣られることに泣きながら抵抗する言葉。
- 4 姉の長い黒髪が切られてしまったことを愁嘆する言葉。
- 5 膚の守りの地藏菩薩を取り出ししきりに救いを祈念する言葉。

問六 空欄 B と C にそれぞれ入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その

番号をマークせよ。

- 1 悲し・楽し
- 2 悲し・嬉し
- 3 ゆかし・楽し
- 4 あさまし・嬉し
- 5 あさまし・いたはし

問七 傍線d「自然」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 きつと
- 2 おのずと
- 3 生まれながら
- 4 万が一
- 5 みずから

問八 空欄

D

に入る言葉を本文中から抜き出せ。

問九 この『山椒大夫』の物語を素材として同名の作品を書いた近代の作家は誰か。次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1 森鷗外

2 島崎藤村

3 高山樗牛

4 芥川龍之介

5 井伏鱒二

